

○ 別表1 (学部の学科、研究科の専攻等の定員未充足の状況について)

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
	(a)	(b)	(b)/(a)×100
	(人)	(人)	(%)
文学部	760	900	118.4
人文科学科	760	900	118.4
教育学部	220	273	124.1
教育学科	220	273	124.1
法学部	850	1,014	119.3
法学課程	850	1,014	119.3
経済学部 *	760	839	110.4
経済学科	300	334	111.3
経営学科	270	293	108.5
1年次 (学科分属前)	190	212	111.6
理学部 **	1,200	1,353	112.8
数学科	100	129	129.0
物理学科	70	90	128.6
化学科	150	163	108.7
生物科学科	160	182	113.8
地球科学科	120	154	128.3
1～2年次 (学科分属前)	600	635	105.8
1年次 (学科分属前) (旧)	—	[7]	—
医学部	1,355	1,412	104.2
医学科	595	605	101.7
(うち医師養成に係る分野)	(595)	(605)	(101.7)
保健学科	760	807	106.2
歯学部	360	366	101.7
歯学科	360	366	101.7
(うち歯科医師養成に係る分野)	(360)	(366)	(101.7)

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
薬学部 **	320	338	105.6
1～3年次 (学科分属前)	160	162	101.3
総合薬学科※17	160	176	110.0
工学部	2,700	3,128	115.9
応用理工系学科	480	511	106.5
情報エレクトロニクス学科	540	591	109.4
機械知能工学科	360	388	107.8
環境社会工学科	630	670	106.3
3年次編入学 (各学科共通)	20	77	385.0
材料工学科※16	40	55	137.5
応用化学科※16	70	79	112.9
情報工学科※16	60	75	125.0
電子工学科※16	60	80	133.3
システム工学科※16	60	87	145.0
応用物理学科※16	50	86	172.0
原子工学科※16	40	55	137.5
機械工学科※16	80	103	128.8
土木工学科※16	80	107	133.8
建築都市学科※16	45	57	126.7
環境工学科※16	55	65	118.2
資源開発工学科※16	30	42	140.0
1年次 (学科分属前) (旧)	—	[1]	—
農学部 *	860	926	107.7
生物資源科学科	108	115	106.5
応用生命科学科	90	94	104.4
生物機能化学科	105	111	105.7
森林科学科	108	118	109.3
畜産科学科	69	73	105.8
農業工学科	90	97	107.8
農業経済学科	75	85	113.3
1年次 (学科分属前)	215	233	108.4
1年次 (学科分属前) (旧)	—	[4]	—
獣医学部	240	268	111.7
獣医学科	240	268	111.7

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
水産学部 **	860	936	108.8
1～2年次 (学科分属前)	430	455	105.8
水産海洋科学科※17	80	99	123.8
海洋生産システム学科※17	80	112	140.0
海洋生物生産科学科※17	120	137	114.2
海洋生物資源化学科※17	120	133	110.8
水産教員養成課程※17	30	0	0.0
(うち水産教員養成に係る分野)	(30)	(0)	(0.0)
学士課程 計	10,485	11,753	112.1
[学科、専攻の廃止後も在籍する学生数 計]	—	[12]	—
	(a)	(b)	(b)/(a)×100
	(人)	(人)	(%)
文学研究科	236	252	106.8
思想文化学専攻	36	46	127.8
歴史地域文化学専攻	76	81	106.6
言語文学専攻	76	74	97.4
人間システム科学専攻	48	51	106.3
教育学研究科	45	58	128.9
教育学専攻※18	45	58	128.9
法学研究科	40	53	132.5
法学政治学専攻	40	53	132.5
経済学研究科	60	59	98.3
現代経済経営専攻	60	59	98.3
経済システム専攻※16 (旧)	—	[1]	—
現代経済経営専攻※16 (旧)	—	[3]	—
経営情報専攻※16 (旧)	—	[1]	—
理学研究科			
数学専攻※17 (旧)	—	[4]	—
物理学専攻※17 (旧)	—	[1]	—
化学専攻※17 (旧)	—	[5]	—
生物科学専攻※17 (旧)	—	[5]	—
地球惑星科学専攻※17 (旧)	—	[1]	—

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
医学研究科	50	58	116.0
医科学専攻	50	58	116.0
薬学研究科			
創薬化学専攻※17 (旧)	—	[1]	—
工学研究科	680	798	117.4
応用物理学専攻	68	78	114.7
有機プロセス工学専攻	50	57	114.0
生物機能高分子専攻	40	53	132.5
物質化学専攻	34	40	117.6
材料科学専攻	60	76	126.7
機械宇宙工学専攻	42	53	126.2
人間機械システムデザイン専攻	40	55	137.5
エネルギー環境システム専攻	40	51	127.5
量子理工学専攻	34	44	129.4
環境フィールド工学専攻	46	38	82.6
北方圏環境政策工学専攻	36	53	147.2
建築都市空間デザイン専攻	36	38	105.6
空間性能システム専攻	44	54	122.7
環境創生工学専攻	56	53	94.6
環境循環システム専攻	54	55	101.9
都市環境工学専攻※16 (旧)	—	[1]	—
農学研究科			
生物資源生産学専攻※17 (旧)	—	[5]	—
環境資源学専攻※17 (旧)	—	[4]	—
応用生命科学専攻※17 (旧)	—	[7]	—
水産科学研究科			
環境生物資源科学専攻※16 (旧)	—	[2]	—
生命資源科学専攻※16 (旧)	—	[1]	—
地球環境科学研究科			
生態環境科学専攻※16 (旧)	—	[1]	—
物質環境科学専攻※16 (旧)	—	[2]	—

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率	学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
国際広報メディア研究科	27	43	159.3	教育学院	45	43	95.6
国際広報メディア専攻※18	27	43	159.3	教育学専攻	45	43	95.6
情報科学研究科	354	389	109.9	国際広報メディア・観光学院	42	45	107.1
複合情報学専攻	48	59	122.9	国際広報メディア専攻	27	27	100.0
コンピュータサイエンス専攻	48	55	114.6	観光創造専攻	15	18	120.0
情報エレクトロニクス専攻	78	81	103.8				
生命人間情報科学専攻	66	54	81.8	修士課程 計	3,057	3,299	107.9
メディアネットワーク専攻	60	80	133.3	[学科、専攻の廃止後も在籍する学生数 計]	—	[45]	—
システム情報科学専攻	54	60	111.1				
水産科学院	180	194	107.8	文学研究科	177	279	157.6
海洋生物資源科学専攻	86	89	103.5	思想文化学専攻	27	41	151.9
海洋応用生命科学専攻	94	105	111.7	歴史地域文化学専攻	57	109	191.2
環境科学院	322	280	87.0	言語文学専攻	57	70	122.8
環境起学専攻	88	68	77.3	人間システム科学専攻	36	59	163.9
地球圏科学専攻	74	57	77.0	東洋哲学専攻(旧)	—	[1]	—
生物圏科学専攻	104	95	91.3	東洋史学専攻(旧)	—	[1]	—
環境物質科学専攻	56	60	107.1	教育学研究科	42	90	214.3
理学院	406	407	100.2	教育学専攻※18	42	90	214.3
数学専攻	92	85	92.4	教育制度専攻(旧)	—	[3]	—
化学専攻	112	120	107.1	法学研究科	45	66	146.7
量子理学専攻	48	49	102.1	法学政治学専攻	45	66	146.7
宇宙理学専攻	36	30	83.3	経済学研究科	45	28	62.2
自然史科学専攻	78	78	100.0	現代経済経営専攻	45	28	62.2
生命理学専攻	40	45	112.5	経済システム専攻※16(旧)	—	[13]	—
農学院	300	343	114.3	現代経済経営専攻※16(旧)	—	[12]	—
共生基盤学専攻	96	85	88.5	経営情報専攻※16(旧)	—	[1]	—
生物資源科学専攻	84	94	111.9	理学研究科	104	123	118.3
応用生物科学専攻	36	65	180.6	数学専攻※17	22	19	86.4
環境資源学専攻	84	99	117.9	物理学専攻※17	19	20	105.3
生命科学院	270	277	102.6	化学専攻※17	23	27	117.4
生命科学専攻	270	277	102.6	生物科学専攻※17	22	32	145.5
				地球惑星科学専攻※17	18	25	138.9

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
医学研究科	430	441	102.6
医学専攻	100	101	101.0
生体機能学専攻※18	60	15	25.0
病態制御学専攻※18	90	138	153.3
高次診断治療学専攻※18	72	96	133.3
癌医学専攻※18	36	46	127.8
脳科学専攻※18	42	18	42.9
社会医学専攻※18	30	27	90.0
内科系専攻(旧)	—	[2]	—
外科系専攻(旧)	—	[6]	—
歯学研究科	168	131	78.0
口腔医学専攻	168	131	78.0
薬学研究科	20	28	140.0
生体分子薬学専攻※17	7	11	157.1
創薬化学専攻※17	7	12	171.4
医療薬学専攻※17	6	5	83.3
工学研究科	255	214	83.9
応用物理学専攻	24	15	62.5
有機プロセス工学専攻	18	12	66.7
生物機能高分子専攻	15	16	106.7
物質化学専攻	15	12	80.0
材料科学専攻	21	17	81.0
機械宇宙工学専攻	15	8	53.3
人間機械システムデザイン専攻	15	18	120.0
エネルギー環境システム専攻	15	14	93.3
量子理工学専攻	15	9	60.0
環境フィールド工学専攻	15	7	46.7
北方圏環境政策工学専攻	15	17	113.3
建築都市空間デザイン専攻	15	16	106.7
空間性能システム専攻	15	11	73.3
環境創生工学専攻	21	23	109.5
環境循環システム専攻	21	19	90.5

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
システム情報工学専攻(旧)	—	[5]	—
電子情報工学専攻(旧)	—	[3]	—
物質工学専攻※16(旧)	—	[3]	—
分子化学専攻※16(旧)	—	[1]	—
量子物理工学専攻※16(旧)	—	[2]	—
量子エネルギー工学専攻※16(旧)	—	[1]	—
機械科学専攻※16(旧)	—	[3]	—
社会基盤工学専攻※16(旧)	—	[5]	—
都市環境工学専攻※16(旧)	—	[15]	—
環境資源工学専攻※16(旧)	—	[7]	—
農学研究科	62	98	158.1
生物資源生産学専攻※17	25	49	196.0
環境資源学専攻※17	18	27	150.0
応用生命科学専攻※17	19	22	115.8
獣医学研究科	96	74	77.1
獣医学専攻	96	74	77.1
水産科学研究科			
環境生物資源科学専攻※16(旧)	—	[20]	—
生命資源科学専攻※16(旧)	—	[8]	—
地球環境科学研究科			
地圏環境科学専攻※16(旧)	—	[2]	—
生態環境科学専攻※16(旧)	—	[14]	—
物質環境科学専攻※16(旧)	—	[3]	—
大気海洋環境科学専攻※16(旧)	—	[9]	—
国際広報メディア研究科	28	33	117.9
国際広報メディア専攻※18	28	33	117.9

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
情報科学研究科	126	134	106.3
複合情報学専攻	12	21	175.0
コンピュータサイエンス専攻	24	12	50.0
情報エレクトロニクス専攻	24	20	83.3
生命人間情報科学専攻	18	24	133.3
メディアネットワーク専攻	24	33	137.5
システム情報科学専攻	24	24	100.0
水産科学院	105	83	79.0
海洋生物資源科学専攻	51	43	84.3
海洋応用生命科学専攻	54	40	74.1
環境科学院	192	126	65.6
環境起学専攻	45	18	40.0
地球圏科学専攻	45	28	62.2
生物圏科学専攻	69	59	85.5
環境物質科学専攻	33	21	63.6
理学院	170	110	64.7
数学専攻	34	14	41.2
化学専攻	44	31	70.5
量子理学専攻	20	10	50.0
宇宙理学専攻	16	14	87.5
自然史科学専攻	40	31	77.5
生命理学専攻	16	10	62.5
農学院	100	89	89.0
共生基盤学専攻	32	31	96.9
生物資源科学専攻	28	20	71.4
応用生物科学専攻	12	15	125.0
環境資源学専攻	28	23	82.1
生命科学院	84	65	77.4
生命科学専攻	84	65	77.4

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
教育学院	21	16	76.2
教育学専攻	21	16	76.2
国際広報メディア・観光学院	17	12	70.6
国際広報メディア専攻	14	8	57.1
観光創造専攻	3	4	133.3
博士課程 計	2,287	2,240	97.9
〔学科、専攻の廃止後も在籍する学生数 計〕	—	〔140〕	—
法学研究科	300	261	87.0
法律実務専攻	300	261	87.0
経済学研究科	40	47	117.5
会計情報専攻	40	47	117.5
公共政策学教育部	60	70	116.7
公共政策学専攻	60	70	116.7
専門職学位課程 計	400	378	94.5

(注1) ※16を付した研究科の専攻及び学部の学科は、平成16年度をもって募集を停止した専攻及び学科を、※17を付した研究科の専攻及び学部の学科は、平成17年度をもって募集を停止した専攻及び学科を、※18を付した研究科の専攻は、平成18年度をもって募集を停止した専攻を示す。

(注2) *を付した学部の各学科における収容定員及び収容数は、2～4年次を示す。

(注3) **を付した学部の各学科における収容定員及び収容数は、3～4年次を示す。

○ 計画の実施状況等

1 定員充足率が90%未満の主な理由

【学士課程】

学部の学科等	主な理由
水産学部 ・水産教員養成課程※17 (うち水産教員養成に係る分野)	水産教員養成課程の学生定員については、各学科に均等になるよう学生を配属しているため、収容数が0人となった。 なお、水産学部は平成18年度の組織再編に伴い、左記課程の学生募集を中止しており、年次進行で解消する予定である。

【修士課程】

研究科の専攻等	主な理由
工学研究科 ・環境フィールド工学専攻	退職した教員の分野における進学希望者が減少したことにより、収容数が下回った。
情報科学研究科 ・生命人間情報科学専攻	定員を上回る志願者数を確保しているが、志願者の約30%を占める学外志願者の合格率が低いため、収容数を下回った。
環境科学院 ・環境起学専攻 ・地球圏科学専攻	学生確保のための広報が不足していることにより、収容数が下回っている。
理学院 ・宇宙理学専攻	本専攻を設置した平成18年に、学生を確保するための広報が不足していたこと、想定していた人数以上に合格辞退者がいたこと、また、同年度に退学があったため、収容数が少なかった。今年度もその影響により、収容数が下回った。
農学院 ・共生基盤学専攻	異動した教員の分野における平成19年度の進学希望者が減少したことにより、収容数が下回った。

【博士課程】

研究科の専攻等	主な理由
経済学研究科 ・現代経済経営専攻	博士課程修了後の就職状況の悪化に加え、課程博士号授与に向けた指導の強化による留年者の減少により、収容数が下回っている。

研究科の専攻等	主な理由
理学研究科 ・数学専攻※17	左記の分野における研究・開発職の需要不足及び学生の募集・指導を担う教員の定年等による交代が多く、学生確保に時間不足があったため、収容数が下回った。なお、理学研究科は平成18年度の組織再編に伴い、左記専攻の学生募集を中止した。
医学研究科 ・生体機能学専攻※18 ・脳科学専攻※18	左記の専攻が基礎医学分野から構成される専攻であること、平成16年度から必修化された新臨床研修制度により、志願者が減少し収容数が下回った。なお、医学研究科は、平成19年度の組織再編に伴い、左記専攻の学生募集を中止した。
歯学研究科 ・口腔医学専攻	平成18年度から義務付けられた1年間の卒後臨床研修により、18年度に入学した新卒者が0名であったため、収容数が少なかった。 今年度もその影響により、収容数が下回った。 このような状況は制度の導入に伴う一過性の減少と受け止められるが、1年間の卒後臨床研修が前期、後期とあるため、充足率は平成22年度まで影響する。
薬学研究科 ・医療薬学専攻※17	学生1名が途中退学したため、収容数が下回った。なお、薬学研究科は平成18年度の組織再編に伴い、左記専攻の学生募集を中止した。
工学研究科 ・応用物理学専攻 ・有機プロセス工学専攻 ・物質化学専攻 ・材料科学専攻 ・機械宇宙工学専攻 ・量子理工学専攻 ・環境フィールド工学専攻 ・空間性能システム専攻	多くの修士課程修了者が企業等に就職し、博士課程進学希望者が少なかったことから収容数が下回った。特に環境フィールド工学専攻については、学生の募集・指導を担う教員の退職により、学生確保に時間不足があったため、収容数が下回った。
獣医学研究科 ・獣医学専攻	社会情勢の影響で学部卒の就職希望者が増加したことに伴い、平成16年度入学者が著しく少なかった(入学定員24名に対し入学者11名)ことが今年度にも影響し、収容数が下回った。
情報科学研究科 ・コンピュータサイエンス専攻 ・情報エレクトロニクス専攻	ソフトウェア開発能力やナノテクノロジー・材料分野の研究開発能力を持った学生に対する就職求人活動が活発になり、結果として修士修了者の就職希望者が例年よりも増加し、収容数を下回った。
水産科学院 ・海洋生物資源科学専攻 ・海洋応用生命科学専攻	近年の経済状況の悪化により学資の確保が困難なこと及び博士課程修了者の就職状況が改善しないことから、収容数が下回った。

研究科の専攻等	主な理由
環境科学院 ・環境起学専攻 ・地球圏科学専攻 ・生物圏科学専攻 ・環境物質科学専攻	環境起学専攻は、修士課程の半分を占める統合コースが高度職業人養成を主たる目的としているため、修士課程修了時に就職する学生が多いこと、その他の専攻については、博士課程修了者の就職状況が改善しないことなどから収容数が下回った。
理学院 ・数学専攻 ・化学専攻 ・量子理学専攻 ・宇宙理学専攻 ・自然史科学専攻 ・生命理学専攻	これらの分野における研究・開発職の需要不足、学生の募集・指導を担う教員の定年等による交代が多く、学生の確保に時間不足があったため、収容数が下回った。
農学院 ・生物資源科学専攻 ・環境資源学専攻	退職した教員の分野における平成19年度の進学希望者が減少したこと及び関連業界、研究機関からの修士課程修了者に対する求人増により、収容数が下回った。
生命科学院 ・生命科学専攻	この分野における研究・開発職の需要不足及び学生確保のための広報不足があったため、収容数が下回った。
教育学院 ・教育学専攻	社会人の合格者数が想定していた人数より少なかったため、収容数を下回った。
国際広報メディア・観光学院 ・国際広報メディア専攻	博士後期課程修了後の就職不安、修士修了者の就職状況の好転による進学希望者の減少により収容数が下回った。

【専門職学位課程】

研究科の専攻等	主な理由
法学研究科 ・法律実務専攻	入学定員は100名であり、収容定員は3年課程として300名となっているが、入学者のうち半数が法学既修者を対象とした2年課程である。従って、2年修了時に半数の50名が修了することとなるため、収容数を下回っている。(実質的な収容定員は250名である)。

2 秋期入学の実施状況及び入学者数

修士課程	法学研究科	1名
	工学研究科	9名
	情報科学研究科	2名
	環境科学院	1名
	理学院	5名
	農学院	6名
	生命科学院	1名
博士課程	法学研究科	0名
	工学研究科	22名
	獣医学研究科	6名
	情報科学研究科	13名
	水産科学院	4名
	環境科学院	1名
	理学院	6名
	農学院	12名
	生命科学院	2名
	国際広報メディア・観光学院	3名